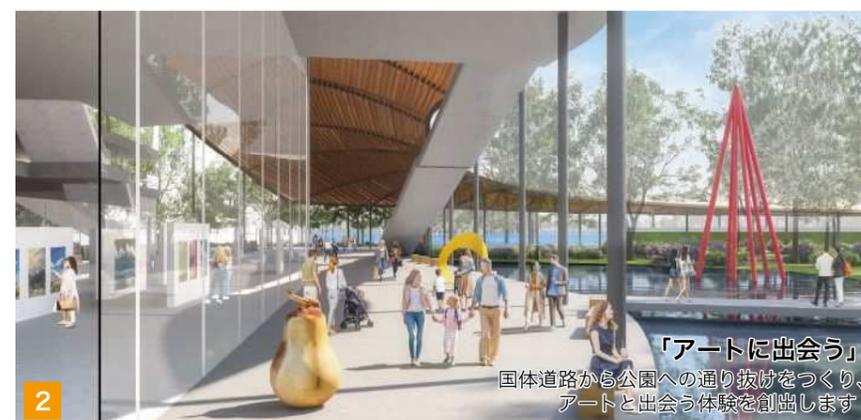


# 人を誘い、森に溶け込む、リボン状のアート空間



(主題1) 公園と一体となった美術館

(主題1) 公園と一体となった美術館

(主題2) 県民が親しみ、誇りを育む美術館

(主題2) 県民が親しみ、誇りを育む美術館

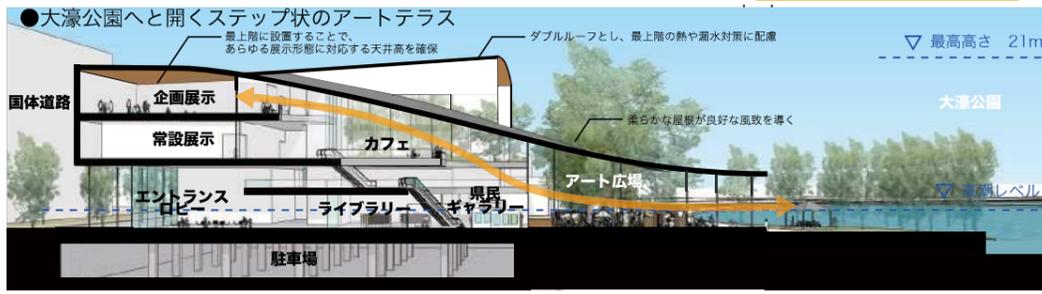
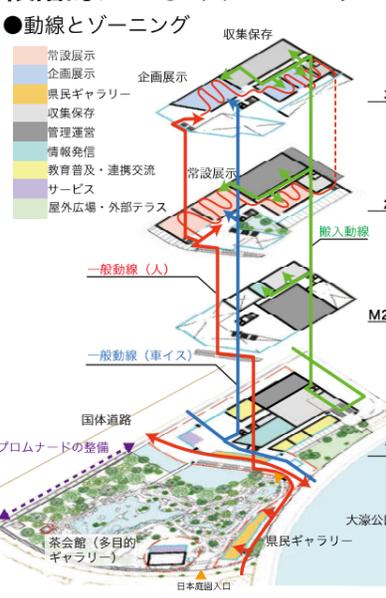
## 1-1 公園と庭園の間をS字に縫う大らかな配置

- 機能を線形（リボン状）に並べてシーケンスをつくり、大濠公園と日本庭園とを両側に臨むアート体験を創出します。
- 既存の日本庭園の樹木を最大限残り、木々の間に細長い建物を折り込みます。
- 国体道路から大濠公園への通り抜けをつくり、公園の新しいアートエントランスとし、都市と公園を連続させます。



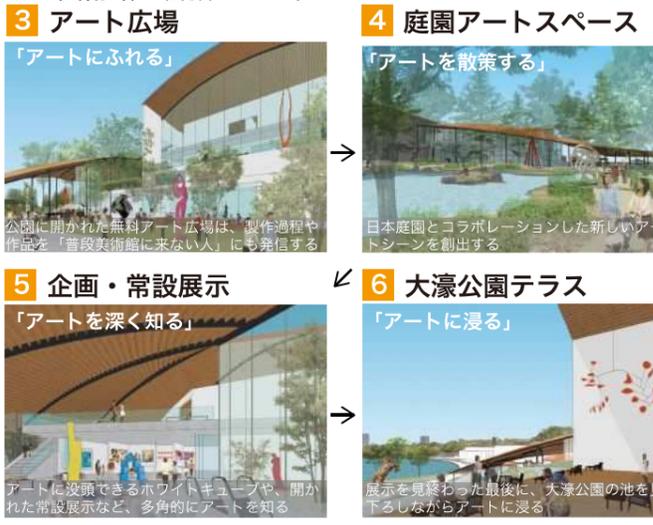
## 1-2 公園に開かれたグランドレベルから、静かな上階の美術空間を段階的につなぐゾーニング

- 1階には開かれた機能を配置し、アートに気軽に触れられる場をつくります。
- 展示室は使いやすい矩形とし静かな上階に配置。様々な展示形式に対応します。
- 収蔵庫は最上階に配置し湿度や浸水等から守ります。
- 搬入などのバックヤード部門は敷地南西側に固めて運営に配慮した配置計画とし



## 2-1 アートを身近に感じられる性格の異なる展示スペース

シーケンスの中に多様な性質の展示空間を設け、鑑賞者としても、発信者としても「アートを身近に」感じられる美術館を目指します。



## 2-2 伐採樹木や掘削土をアップサイクル、時を重ねる素材を選定。公園の歴史を継承

- 建設で伐採した樹木は、県民と木工WSを開催し家具として新美術館へ引き継いでいきます。
- 掘削に伴い発生した建設残土は左官材料や床タイルに用い、県民参加の土ブロックWSを行います。
- 屋根は銅板菱目葺きとし、リボン状にひねった屋根形状のため場所ごとで経年変化の様子が生まれます。時が経つにつれ次第に緑へ溶け込みます。

